



ビジネスと人生(三)

David K. Reynolds, Ph.D.

dkreynoldsjapan@gmail.com

道元禅師の典座（禅寺で、床座や粥などの仕事をつかさどる役僧）への指示を取り入れた、役員、管理職、社員など会社で働く人たちへのアドバイス。
森田正馬のことばー「アドバイスをしてくれた人には礼を言うべきだが、アドバイスに従う義務はない」

◆なぜ仕事をするか

たぶん、社員は自分の時間と交換に会社が給料を払うのが仕事とみる、失業者はすばらしい特典として、雇用主は少ない給料で最大限の社員の努力としてみる。恋人同士にとっては逢瀬の場として仕事をとらえる。見方は様々。もうひとつの見方として、仕事は自分を完成させるための機会ととらえる。さあ、どう取り組むか？

「感情を受け入れ、目的を知り、必要なことをする」

◆自分に問いかける

- ・仕事をしないで考え事をするのは自分にとっていいことか？
- ・辞職したり、退職して楽な人生になるのは自分にとっていいことか？
- ・障害者のふりをして労働者災害補償金で暮らすのは自分にとっていいことか？
- ・職場の仕事は成長するチャンスを提供している。
- ・机に座りながら、コピーをとりながら、水をやりながら、エレベーターを待ちながら自分を深く耕すことができる。
- ・今のこの仕事を自分がしないで誰がするか。
- ・今のこの仕事をあなたと同じように働ける人がいるか。
- ・自分と同じにうまく仕事をすると知っている人がいるか。自分の得意なことを知る人は自分。
- ・自分と同じに仕事がへたと知っている人がいるか。自分の弱い面を知っているのも自分。
- ・あなたは賃金のためだけに働くのではなく、人生のために働く。

◆欠勤管理職にご用心

- ・実際の職場から離れた経営上の決定は、流れ作業やゴミ箱を空にするより優れた仕事ではない。
- ・どんな仕事もうまく成すには注意力が求められる。
- ・自分のために働く仲間の部下や上司、他の人を見込みがないと見限らない。
- ・その人たちの給料や履歴がどうであれ、仕事のためにこの一瞬に貢献している。
- ・仕事を他の人に委ねるのも必要だが、仕事から遠のくのは間違い。
- ・現実の仕事すべてから自分を離さないようにする。
- ・自分にしかできないことは自分でして、後は他の人に委任してからその仕事を見届ける。
- ・机の上の足を床に下ろして今ここに自分を委ねる。
- ・机の上に足を上げていると椅子は気まぐれに回転する。

◆自分を仕事に捧げる

- ・ビジネスは神聖な精神的訓練でもあると知っているか。宗教と関係のない修行とも云える。
- ・オフィスは神聖さを取り入れるのに完璧な場所。
- ・机は祭壇、祈りのための敷物はそこら中にある。自身を仕事に捧げる。
- ・仕事中毒は逃避の典型だが、思いやりのモデルは仕事場のあちこちで見つけられる。どんな感情があっても愛する行動で思いやるモデルになれる。
- ・会社に貢献するように仲間や自分自身にも貢献する。
- ・たった今、あなたは会社と人生の歴史を作っている。
- ・自分の記録を正す。
- ・他の人を思い通り動かすことはできないから、自分の言葉に相手が注意を払いそこなったとしても、提案をするかしないだけ。それは、その人の耳や手、能力であって、自分のではない。
- ・結果に関係がある。

◆息抜き

- ・就業時間外に休暇をうまく使う
- ・就業時間中にうまく息抜きをする。
- ・仕事から別の仕事に移るのは息抜きになる。
- ・休暇や息抜き以外の人生（仕事）を無駄にして、休暇や息抜きを中心に人生を築くのは恥ずかしいこと。

◆自分の仕事の価値を認識する

- ・2倍かそれ以上の給料をもらっている。
- ・自分が在るのは賃金のためだけではないし、人生はお金だけではない。
- ・人生の雇用主はだれか？
- ・人生のビジネス時間はいつ終わるか？

(終わり)

(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)

 [目次へ戻る](#)